

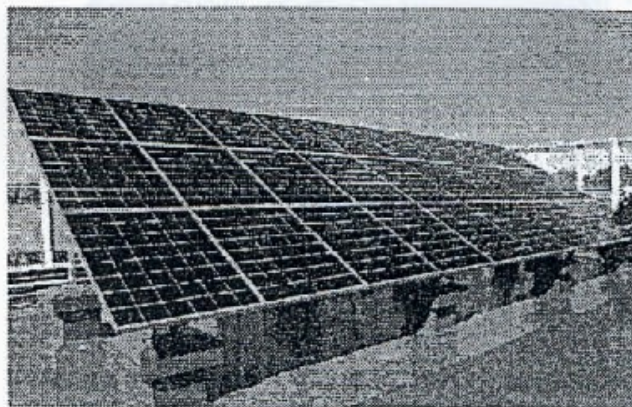
おひさまだよ

麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会だより NO.1(創刊号) 2003/2/15

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会

『自然エネルギー活用促進事業が推進されています!』

麻生区は、平成 14 年度「自然エネルギー活用促進事業」を区制 20 周年の記念事業、ならびに魅力ある区づくり推進事業のひとつとして進めています。これは、区役所屋上の太陽光発電設備と駐車場に太陽光外灯の設置を行い、これらの設備を活用した自然エネルギーや省エネルギーの普及啓発の活動を区民と行政の協働事業で実施するものです。



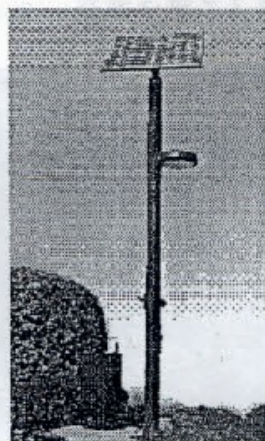
区役所屋上の太陽光発電設備

■実行委員会ができました

この事業を推進するために、14 年夏には、自然エネルギーに関心ある区民と行政により「麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会」が立ち上げられました。そこで企画立案された[私たちのまちでも自然エネルギー]シリーズ 3 回の催しは秋以降実施されました。

■説明用パンフレットがあります

実行委員会とワーキンググループのメンバーで説明用パンフレットを作成しました。区役所資料コーナーなどに置かれています。是非ご覧ください。



区役所前広場の外灯

■区役所屋上の太陽光発電設備が見学できます
区役所屋上に太陽光パネルの設置を記念して、平成 15 年 2 月 15 日 10 時から、講演会が開催されます。このとき、あわせて見学会も開催します。なお、2階ロビーの表示板には、現在の発電量、1日の積算発電量、そして、CO₂ 排出削減量が表示されます。



区役所2階ロビーの表示板

■今後の活動の予定

平成 15 年度は、見学会を中心に啓発活動を進めていきます。なお、見学会については、事務局にお問い合わせください。

今後も、事業の様子などをお知らせしていく予定です。

■ これまでに開催された催しを紹介します

平成 14 年の秋以降、3つの催しが開催されました。まず始めに、体験イベント「区役所で自然エネルギーを体験しよう」が平成 14 年 11 月 16 日(土)に、次に、デンマークの「風の学校」代表のステファン・ケンジ・スズキさんをお招きして、講演会「環境産業を育てたデンマーク市民」が平成 14 年 11 月 29 日(金)に開催されました。そして、東京電力横浜火力発電所・東京ガス環境エネルギー館の見学会が平成 14 年 12 月 5 日(木)に開催されました。

「区役所で自然エネルギーを体験しよう」

日時:平成 14 年 11 月 16 日(土) 10時から 14 時

会場:区役所前広場

対象:大人・子ども

内容:太陽光発電装置・ソーラークッカー・風力発電機・
燃料電池装置の展示/ソーラークッカー工作教室/
ソーラーカー試乗



区役所前 会場の様子

「イベント・区役所で自然エネルギーを体験しよう」に参加して

「おひさまと遊ぼう!」というキャッチコピーのイベントだったのですが、当日はあいにくの曇り空で真冬のような寒い 1 日となってしまいました。それでも、区役所前広場にソーラーカーが登場すると、図書館や市民館を訪れる子どもたちが目を輝かせて集まってきました。

台所で使うガス台マット・アルミ缶・ペットボトルを使って作る鳥居式ソーラークッカーの工作教室では、子どもや大人が真剣にクッカーの工作に取り組みました。

風力発電機や燃料電池装置、ソーラークッカーなどを集めた展示コーナーは壮観で、興味をもたれる方が多く、装置の仕組みや発電効率などについて熱心に見学したり、質問したりしていました。



人気のソーラーカー

曇り空のため、予定していたソーラークッカーの実演・試食を行うことが出来ず残念でしたが、イベント全体で約 150 人の参加あり、ソーラーカーには約 60 人が試乗、ソーラークッカーの工作教室には 19 人が参加して楽しいひと時を過ごしました。次回は、工作したソーラークッカーを持ち寄ってのソーラークッキング大会などをやってみたいと思います。



パラボラ型ソーラークッカー



ソーラークッカー工作コーナー

人類が現在のような繁栄を得た要因を挙げるとすれば、「水」と「火（エネルギー）」を管理できる技術を生み出したことでしょう。この二つは、命の源として不可欠な存在と誰しも認めることです。

スズキ氏の講演から、デンマークでの実例を通して多くのことが示唆されました。

まず、生命線の一つである水を守ることから、バイオプラントの基礎ができ、環境汚染の防止に貢献し、且つエネルギーを生み、農家の環境産業に育てた事例には、学ぶものがあります。日本に於いては水資源が豊富にあるために、質に対する関心が薄く、飲み水への汚染防止など、今考えないといけないことが山積みしています。

デンマーク政府は、16年前に共同バイオガスプラントの導入に関する行動計画を作成し安全な水の供給と、農家においては環境とエネルギー政策に貢献しました。更に、それは売電収入と自家消費の節約となり、事業としても成り立っています。

大気汚染を防ぐため、風力発電を導入し、電力消費量の約15%をまかなっています。驚くべきことに、その85%以上が個人や市民グループが所有している風車だそうです。

廃棄物の処理と利用についても、リサイクル率約65%、発電及び熱供給用燃料として約24%、そして残る約11%が最終処分場に投棄されています。

最終処分場で発生するメタンガスも熱源化しています。ガスを抜き取ることで廃棄物の分解を早める効果があり、30~40年で土となるそうです。

このようにデンマークの人達は化石燃料による発電を削減し、エネルギー源を分散することにより、地域にエネルギー産業を起し新たな雇用を確保しています。



ケンジ・ステファン・スズキさん



デンマークの風力発電

この市民・企業・行政の連携プレーこそが、エネルギーの自給率が100%を越える原動力になっています。それは地球の温暖化の原因と見られる二酸化炭素の削減に大いに貢献していることは、周知のことです。

以上の様なお話し以外に、デンマークの国の福祉・教育・医療・財源などに関することもお聞きしました。印象に残った言葉は、「国民が国の最大の資源」という言葉でした。

この国民を資源と考え大切にする福祉政策と、環境・エネルギー政策は一つの円となり密接に繋がっています。環境の悪化は、医療・福祉の負担増につながり、エネルギーの安定供給がその糸口であり、循環していることがよくわかりました。

日本における環境問題の現状と課題として3つのことを示唆されました。

- 1) 水と大気汚染の問題
- 2) 増えつつける日本のエネルギーの消費量
- 3) 食糧を国外に依存する日本

スズキ氏には、外から日本を眺めることで、さまざまな問題点が鮮明に見えてくるのでしょうか。

「次の世代に」負の遺産ではなく、デンマークが30年をかけて環境先進国を創ったように、「時間をかけ、持続可能な社会を構築することは、今を生きる人の義務である」との言葉は非常に重く受け止めざるを得ませんでした。まだまだ聞きたいことの多い講演でした。

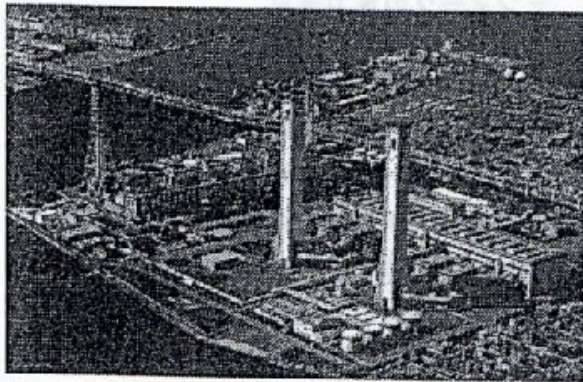
多くの聴衆が、深く掘り下げた話をより真摯に再度聞きたいと願う、すばらしい講演会でした。

(五十嵐)

見学会に参加して(トウニー横浜:東京電力横浜火力発電所/ワンダーシップ:東京ガス環境エネルギー館)

12月5日東京電力「トウニー横浜」、東京ガス「環境エネルギー館」の見学会。麻生区役所からバスで出かけました。

ベイブリッジからみえる特色のある二本の煙突が建っているところがトウニー横浜、横浜火力発電所です。1962年昭和37年8月より発電を開始後、都市の発展とともに電力需要に応えるため1998年平成10年1月に従来の設備に加え、ACC(改良型コンバインドサイクル)発電方式の設備を増設し、実稼動350万キロ



東京電力 横浜火力発電所全景

ワット規模の発電所になりました。設備、中央操作室等の見学と展望台になっている煙突に上って横浜の市街地を一望しました。眼下に工業地帯が広がる反対側の窓は、横浜の中心地“みなとみらい21”の街が広がっています。



横浜火力発電所の煙突からの眺望

しかしその頭上には霧のように帯状のスモッグが深い風景がかすんでいました。この光景は、緑豊かな麻生区では考えられないことです。この汚染された大気の下で、人々は暮らしているのです。日本の産業をさ

さえてきた工業地帯が広がる地域だからという言葉で終わってはいけないと思いました。麻生区自然エネルギー活用促進事業を通じての普及啓発は微々たる活動かも知れませんが、未来の為に大切なことだと感じました。



東京ガス環境エネルギー館屋上ビオトープ

次に東京ガスの環境エネルギー館ワンダーシップに行きました。建築環境システムにより、建物全体が自然の力を活用しています。燃料電池によって発電をし、NOxの発生を防いでいます。屋上ビオトープはみんなの注目の的で、特に風車発電機、太陽光発電には興味シンシンでした。



インタープリターによる解説コーナー

私は、2階の環境情報センターが以前から興味があって集合時間になるまで本を読んだり、情報紙に目を通したりしていました。麻生区にも図書館や区役所のロビーの一角にこの環境情報センターのような環境に関する情報コーナーがあったら、良いと考えます。ワンダーシップは大人も小人も遊びながら学習できる施設です。皆さんも、一度は足をお運びになるとよいでしょう。(宮河)

発行 : 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会
問合せ : 麻生区役所区政推進課 Tel 044-965-5112 Fax 044-965-5200
神奈川県川崎市麻生区万福寺1-5-1 発行年月日 平成15年2月15日